

技術レポート No. 022

「街路樹剪定士制度」海を渡る

(社)日本造園建設業協会 技術・調査部長 野村 徹郎

3月27日(11月16日)号の巻頭

10月26日

涂さんが7時半に迎えに来たが、7時からオープンするタイミングでのんびりしたペースのウエイトレスのサービスで朝食が終わるまで待つてもいいかな。

朝の渋滞が始まった陽明山を下り、講習会場の志成公園に到着すると受講者の皆さんは作業ジャンパーとヘルメットを支給され、実技講習の準備をしている。準備が終わるのを待ちながら、公園内を歩いていると高所作業車やチップパーを



写真12 高枝切りによる剪定



写真13 管理目標樹形と剪定位置を解説する立山講師



写真14 見本剪定



写真15 樹木に寄りかかるような支柱



写真16 支柱結束に興味津々



写真17 実技講習後の記念撮影

10月27日
実技試験は立山さんと遠藤さんにお任せして、今朝は7時に迎えに来た涂さんと中華大学の景観建築系の学生に道路景観の話をする

10月28日
あつという間に帰国の日がやってきた。市内を少しづつ歩いてみようかと思っていたが、迎えに来てくれた涂さんと李さんの車に乗ってしばらく走ると、「ここが台湾大学です」と言っていてゲートを入った。校内を見学するかと思っていると

10月29日
2時間ほど続き、のどが渇いてお腹がすいてきた謝理事長の一声で本日は終了となった。

10月30日
実技試験は立山さんと遠藤さんにお任せして、今朝は7時に迎えに来た涂さんと中華大学の景観建築系の学生に道路景観の話をする

引いたトラックが到着し、作業班を率いて黄色いヘルメットに安全ベストを着用した主任の指示のもとバリケードを下ろして園路を通り止めにしてい。公園の日常的な維持管理でもするのかなと眺めていると、今日の講習会のために公園路燈工程管理處が準備したのだとい。

さすが謝理事長、段取りのよさにまたまた感心する。準備が整い、タイヤフワの見本剪定に先立ち、立山さんが現況樹形、管理目標樹形、剪定位置の説明図を書くために、大きな紙がベニヤ板はないかと聞くが準備していないという。それで仕方ないと、コンクリート園路にチョークで図を書くことにした。(写真1)

園路に描いた解説図と比較しながら質疑応答をする。プランチカーでの切断や樹形を乱す要因となる枝の切除など細かい質問がされる。受講者の熱心な態度が伺える。

休憩後は場所を移して、公園内の車道沿いに植えられた大きなガジュマルの見本剪定を行う。今回は高所作業車を使い、道路の建築限界や支障となる枝の切断位置、将来の成長を見込んだ剪定枝の選択など、わかりやすく解説した。

ツバキの後は、公園内のホウオウボクをモデルにして台湾式の剪定を行う。いつも公園の剪定をしている方に切り方を見せてもらうと、かなり重量のある高枝切りを地上から巧みに扱い、無理な力を入れているとなくスイスイと切っている。一度下から鋸を入れてからプランチカーの近くでちんちんと切除してゆく。

切除する枝の向きと地上で立つ位置と鋸歯の入れ方によって落下する枝の位置を予想しながら剪定して行く技術は見事なものだ。受講者にも高枝切を使って台湾式の剪定実習を行い、地上から届く範囲で切除する

枝の選び方や太い枝の二段切りを指導する。枝の乱れている樹木をサングラに、どの枝を残して切ればよいか質問を行う。ほとんどの人が、曲がりくねった枝を切るべきだとこの意見に対して、一人だけ隣のトックリキワタに干渉している枝を将来の樹形を考へて切るべきだと自分の意見を明確に述べる。

では、実際に枝を落としてみようと、初めに多数意見の枝を切除してみる。曲がりくねった枝を落としてみると、今度は隣に伸びる枝が大いに気になってくる。

そこで、将来的に成長させる枝を残して先端部分を切る、全体樹形が整ってき、剪定しながら全体樹形を考へることの重要性が理解されたようだ。

台湾についてから、ずっと気になっていたのが支柱である。(写真15)
公園内を見ても、支柱が自立して樹木を支えているというより、樹木に寄りかかっているようなものが多い。結束部分に割が入っているのトックリキワタに干渉している枝を将来の樹形を考へて切るべきだと自分の意見を明確に述べる。

そこで、男結びやこぶ結びなど日本の結束を紹介すると、みんな興味津々で集まってきた。「もう一度やって見せて」「もっとゆっくり」などの声に添えて三人で何藤さんと合流し、切除する枝と剪定位置の判断を主として行った実技試験の様子を話し合ったが、特に問題のある受講生はあらず、学科試験の結果とあわせて、謝理事長の合否判断に委ねようということになった。

公園での実技講習が終わると、全員で剪定した片付け、枝をチップパーで処理するのを見学したあと、陽明山の講習会場に戻ってからの質疑応答には、熱心な質問が

あつという間に帰国の日がやってきた。市内を少しづつ歩いてみようかと思っていたが、迎えに来てくれた涂さんと李さんの車に乗ってしばらく走ると、「ここが台湾大学です」と言っていてゲートを入った。校内を見学するかと思っていると

10月28日
あつという間に帰国の日がやってきた。市内を少しづつ歩いてみようかと思っていたが、迎えに来てくれた涂さんと李さんの車に乗ってしばらく走ると、「ここが台湾大学です」と言っていてゲートを入った。校内を見学するかと思っていると

10月29日
2時間ほど続き、のどが渇いてお腹がすいてきた謝理事長の一声で本日は終了となった。

10月30日
実技試験は立山さんと遠藤さんにお任せして、今朝は7時に迎えに来た涂さんと中華大学の景観建築系の学生に道路景観の話をする

10月31日
実技試験は立山さんと遠藤さんにお任せして、今朝は7時に迎えに来た涂さんと中華大学の景観建築系の学生に道路景観の話をする

園芸学系の張教授や昨日の中華大学の李教授など15人ほどの待つ部屋へ入り、ここで少々意見交換会をするという。

台湾の景観について一言とききり振られ、「台北市も都市再開発が進んでいるよつだが、風土や歴史を考慮した都市計画や景観作り」に貢献するのが造園に携わるもの役割だと思つた。なご、少々気取って言ってしまう。

到着の午後から出発の朝まで見事に引き回されこき使われた感じが、海を渡つた日造協の「街路樹剪定士」制度が台湾でも定着し地域性にあわせた街路景観作りのお役に立つよう今後も情報交換を続けていきたいものである。

植栽基盤に関する質問など、1時間ほどの交流が終わるともう空港へ向かわねばならない時間になってしまった。

事務局長の動き

【1月】
9(火) 造園基幹技能者認定研修会(東京) 10日
・新年造園人の集い
13(土) タイ国際園芸博覧会シヤバンデー
18(木) 建設産業専門団体連合会総務部会
19(金) 造園施工管理技術検定委員会
22(月) 造園基幹技能者認定研修会(米子) 23日
・松岡農林水産大臣へ要望

【2月】
2(金) 沖縄国際洋博覧会審査会
3(土) 沖縄国際洋博覧会表彰式
5(月) 第33回全国デザインコンクール表彰式
6(火) 「広報日造協」編集会議
7(水) 入札契約制度対応分科会
8(木) 街路樹形再生テクノロジー勉強会
13(火) 造園・環境緑化産業振興会事務局会議
15(木) 造園基幹技能者認定研修会(金沢) 16日
・総務委員会企画部会

24(水) 総務委員会企画部会
造園基幹技能者認定研修会(茅ヶ崎) 25日
資格制度普及分科会
27(土) 第33回全国造園デザインコンクール審査会
30(火) 第1回基幹技能者制度推進協議会幹事会
31(水) 造園基幹技能者認定研修会(福島) 1月1日

28(水) 造園基幹技能者認定研修会(大阪) 3月1日

総・支部 だより

各総支部・支部からの記事を紹介しす

「かながわのみどりを創り、育てる講演会」開催

神奈川県支部

神奈川県の後援を得て、昨年の11月6日(月)神奈川県建設会館において「かながわのみどりを創り、育てる講演会」を企画し、川奈川建設会館において、かながわのみどりを創り、育てる講演会、まちなみ景観と街路樹セミナーを開催したところ、行政側から神奈川県を始め横浜市・川崎市西政令指定都市等10市1町の道路・公園・緑化事業担当者54名、支部会員79名の参加を得て盛況裡に開催された。

講演では、美しい道路を育てていく上で大きく原則としていくべき方向性と実践編、ルールと整備の考え方、事例編、道路のデザインがあり、道路には、構想、計画から始まって、計画、施工、管理まで含めた一連のプロセスがある。その中で、景観も含めた総合的な観点をもって作っていくことが重要である。

管理と分離して考えるのではなく道路内にとどまらず周辺地域をも一体のものとして考えることが重要である。また、美しい道路をつくるには、外にいる人が道路を含め周辺の美しい景観を感じられる。通行している人が周辺の美しい景観を感じ、中を通行している人が沿道の建物や道路内部の構造物を美しいと感じられることである。道路の方向性として、むだをやめ、地域における道路の機能に根ざした必然性のあるおさまりの道路の特殊性に基づき、公観的な一貫性の保持、公共空間として控え目かつ洗練された道路空間の創造、付加的で過剰なデザイン、排除の4点である。

植栽の景観的役割・効果を発揮するためには、植栽の性格をきちっと理解することその場所にあった風土がその緑をみると分るというのが景観的役割として一番大きい。道路の性格にふさわしい植栽形式、混植、使用樹種の選定、既存樹木・樹木の現況保全も大切だが、大変難しいと思いがすが道路、概略、断面線形の設計が終わった後に植栽するのはなく、「この樹木が植えて空間・風土性を表現するのだから線形もこの様にしたらどうか」といざいざ発言していただき緑に関わるエンジニアとしてがんばっていただきたいと大変示唆に富んだ講演をいただいた。

第2部では、「街路樹の持つ今日の意義と技術的課題」について千葉大学園芸学部緑地・環境学科教授藤井英二郎氏から講演をいただいた。緑というのは基本的には我々の生活環境の素地だと思っている。素地の中に道路をつくる或いは生活環境を構成するというのが基本で、その素地を台無しにしていたら我々の生活は基本的に成り立たないし、そういう意味での素地である。理解しないと道路における街路樹の緑化も極めて未梢的、表面的な緑化に終わってしまう。「街路樹問題その現状と課題」についての講演概要は次のとおりである。

石材施工の向上へ 県支部で育成めざす

宮崎県支部

日本の伝統的な造園技術の「石積み」がある。従来、この分野は熟練した造園家と石工(いしく)が担ってきたが、石工職人の年齢が高く、また年々高齢化している現実がある。原因としては、工事量の減少・厳しい徒弟制度等の要因が考えられるが、このまま推移すると、技術伝承が途絶える恐れがある。一方、造園事業としては、景観・環境工事の増加に伴って石材の活用が求められてくると思われる。

このような背景から、宮崎県支部は現在「石積み技術」の取得に取り組み、「鑿(のみ)」の使い方から講習を付けている。具体的には、西都高等職業訓練校(宮崎県西都市)で1回が16人まで、2カ月間の土曜日・日曜日合計66時間の講習を受けている。この講習は国家資格である家賃格である技能検定制度の一種で、「石材施工技能士」の取得を目指すものである。

今後、河川の自然石積みへの進出、歴史的な石製建造物の復旧・維持工事、またコンクリート製品からの切り替えによる景観・環境工事に取り組んでいきたい。(事務局長・徳地信一)

はいるが、残念ながら専門技術者がいない。これがもるもるの問題点の大きな出発点である。設計がしっかりされていなくて、マニュアルにより選んでいるとか、フリーリングのよう形で物事が処理されていて設計で十分検討できていない面がある。道路専用物の調整ができていない。交通信号・標識・架空線等の申請に対し街路樹を考えた占有物の許可が指導ができていない。不適切な剪定が極めて多い。これは、経済的な制約による低コスト剪定が大きな要因である。また、日本では強風による枝折れ、幹折れや倒伏を防ぎながら樹形を維持するしつかりした剪定技術が生まれたが、残念ながら剪定技術が維持できなくなっていること、一律な街路樹剪定技術に固執していること、市における地球温暖化などの環境の変化に対応できない、また、電線などの地下埋設区間での一律な抑制剪定や苦情対応剪定或いは樹種本来の樹形・樹勢を損なう剪定など現場の状況に合わせた剪定ができていない。さらに、剪定結果の適否が評価されていない。発注側が当然評価しなければいけないがその責任を果たしていない。従って公共財としての街路樹が損なわれている。道路・埋設管工事にご参加いただき、受注事業者である会員ととも共通の理解が得られ今後の事業遂行の参考となる有意義な講演であった。

「シボソム」や氏の作品の庭を訪ねる1泊2日の「京都庭園ツアー」など、これもキャンセル待ちが出る程の盛況だ。さて、3年の内、また、この3年の内



石積み講習の様子

「かながわのみどりを創り、育てる講演会」開催

「かながわのみどりを創り、育てる講演会」開催

「かながわのみどりを創り、育てる講演会」開催

「かながわのみどりを創り、育てる講演会」開催

「かながわのみどりを創り、育てる講演会」開催

「かながわのみどりを創り、育てる講演会」開催

「かながわのみどりを創り、育てる講演会」開催

「かながわのみどりを創り、育てる講演会」開催

「かながわのみどりを創り、育てる講演会」開催

「かながわのみどりを創り、育てる講演会」開催

「かながわのみどりを創り、育てる講演会」開催

「かながわのみどりを創り、育てる講演会」開催

「かながわのみどりを創り、育てる講演会」開催

「かながわのみどりを創り、育てる講演会」開催

「かながわのみどりを創り、育てる講演会」開催

「かながわのみどりを創り、育てる講演会」開催

「かながわのみどりを創り、育てる講演会」開催

「かながわのみどりを創り、育てる講演会」開催

「かながわのみどりを創り、育てる講演会」開催

箱庭

うねりの中で考えたこと

紙面の関係で重森三玲氏個人に関わる事柄については残念ながら割愛させていただきますが、それにしても近代庭園史に残る稀有なこの偉大な作家(芸術家)がこれ程、世間に脚光を浴びているのに、この事実に業界に身を置く私共のなんと稀薄で鈍感なことなのだろうか。

以前、NHKで朝の連続ドラマで放映されていた「わかば」の時にもそう感じたが、業界の追風ともなる折角の社会や世間のムーブメントに、どうも私共の業界は今一つ乗りがはずさやしないだろうか。

一方政治に目を向けてみても「景観緑三法」や安倍首相が自ら唱えている「美しい国・日本」など、私共の追風となるムーブメントはしっかりと準備されているのではないかと。もしかしたら、この波に乗れない私共の原因があるのかもしれない。

私共の中でこんなうねり業界発展につなげる様にプロデュースしてくれる知恵者が一人でも多く出現してくれることを願わずにはいられない。

偉大な作家からいただいた折角のご褒美に微塵にも応えきれないわが身が口惜しい。